

第一回「ちば講座アワード」エントリー講座

「ちば学リレー講座2019」実施報告書

■主催者

ちば産学官連携プラットフォーム (<https://www.chiba-pf.org/>)

参加大学(11校・五十音順) ※千葉市及びその周辺の私立大学11校で構成

植草学園大学

神田外語大学

千葉経済大学
千葉経済大学短期大学部

千葉明德短期大学

東都大学
Tohto University

植草学園短期大学

敬愛大学

淑徳大学

帝京平成大学

放送大学

■連携先

千葉市政策調整課、千葉市教育委員会生涯学習振興課、参加11大学・短期大学

■ねらい

ちば産学官連携プラットフォームのめざす、**地域の発展と課題解決に寄与すること**

■講座概要

ちば産学官連携プラットフォームに参加している大学・短大11校の教授陣が、千葉(市)に関する研究や話題を、健康や市民活動、多文化共生、介護などさまざまな側面から紐解くものです。今年度は年間8講座を開催中です。



■今年度の講座

第1回	5月18日	ちばの「健康づくり」 ～慢性的な腰痛や肩こりを訴える性格は?～	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部	荒木 誠一
第2回	6月29日	ちばの「市民活動」 ～文教地区「稲毛」から始まったまちづくりとボランティア～	千葉経済大学 経済学部	粟沢 尚志
第3回	7月27日	ちばの「地域デザイン」 ～多様な文化的背景を持つ人々と暮らすために～	敬愛大学 国際学部	水口 章
第4回	8月31日	ちばの「くらしと介護」 ～千葉でいつまでも暮らしたい	東都大学 幕張ヒューマンケア学部	櫻庭 けい子
第5回	10月26日	ちばの「児童虐待」 ～千葉県における児童虐待とその対応～	千葉明德短期大学 学長	金子 重紀
第6回	11月30日	ちばの「新都市」 ～まぐはり変貌ストーリー～	神田外語大学 外国語学部	豊田 聡
第7回	12月21日	ちばの「シロロジー」 ～“チバニアン”と私たち～	放送大学 教養学部	大森 聡一
第8回	1月25日	ちばの「都市創生」 ～千葉市の都市・地域マネジメント～	淑徳大学 コミュニティ政策学部	矢尾板 俊平

各講座10～25名の参加があり、興味があるテーマを絞って受講される方もいれば、全ての講座を通して受講される方もいらっしゃいます。質疑応答も活発で、あっという間の90分間です。



■今後の展望

より充実した市民の学びの場を「ちば産学官連携プラットフォーム」として提供できるよう、**2020年度は年間10講座の開講を目標**としています。

本講座は今年度スタートした講座ですが、「もっと聞きたい」「もっと知りたい」というご要望を受講生から多数いただいております。

各大学・短期大学が個別に講座を実施するだけでなく、お互いの教育研究の成果をプラットフォームという共同の場で披露することで、より多くの皆様に学びの場を提供できるようになりました。

人生100年時代の新しい学びを深めていただくためにも、**ちば学リレー講座**で学ぶ市民の皆様がさらに増えていくように努めてまいります。

船橋市立医療センターとの連携事業

船橋市西図書館

医療講演会・相談会

講座のねらい

高齢化社会が進むなかで、図書館においても健康情報を提供することが市民から求められるようになりつつあります。そのなかで船橋市西図書館では平成28年10月から毎月医療講演会を開催しています。

また、講演会後には講師である医師に加え、各回のテーマにあわせたプロフェッショナル(栄養士・看護師・ソーシャルワーカーなど)を相談員として派遣していただき、一人あたり10分程度相談をすることが出来ます。

このような講演会・相談会を通じて、船橋市西図書館は「調べる」「学ぶ」を応援する図書館を目指しています。



テーマは
月替わり！



講演会の開催だけでなく、「医療情報コーナー」として医療センター図書室の司書が選定した医学関連書や、国立がん研究センター発行のがん冊子等の配置も行っています。

参加者の声

- ・正しい知識や手術の内容が分かったので、がんになっても怖くないと思った。
- ・相談から治療、術後のケアネットまで、今まで知らなかったことも知ることができ、安心感が持てました。
- ・病院に行って相談するには敷居が高いけれども、図書館でなら気軽に相談が出来るのでありがたい。

成果と課題

成果 当初は講演会が定員に達しないこともあったが、現在は毎回安定して定員の7割以上の申込があり、定員に達することもしばしばあるため、市民の間にも定着が進んでいると考えられる。

課題 講演会が定員に達している場合でも、相談会の申込が少ない場合がある。講演会に比べて、相談会の方の周知が不足していることが考えられるので、今後は相談会の周知の強化を行っていく必要がある。

少子高齢化社会、子どもの貧困、家庭の教育力の低下等、子どもたちを取り巻く社会は複雑化・困難化している今日、家庭教育の推進が必要不可欠なものとなっている。このような中、子育て世代の親子が安心・安全に過ごすとともに、同じ悩みを抱える親同士が悩みを共有し、地域住民やボランティアをはじめとする様々な方々の協力を得ながら子育てについて多くの学びを得られる環境づくりに寄与する。

子育て広場イベント



地域子育てサポーターが中心の季節に合わせた工作イベント



管理栄養士による
食育ゲームとアドバイス



サークル団体による
体験型読み聞かせ



保健師・保健推進委員に
よる虫歯予防の人形劇



保護者考案の
子ども服交換会



親子ふれあい体操



NPO団体による紙芝居



親子ヨガ

成果と課題

参加者の声

- ・色々な講座があるので、毎回親子で楽しんでいます。親も子ども学習できる場だし、何より、交流ができる。地域の方とも交流ができ、子育て広場以外で会っても声をかけてくれるので嬉しい。
- ・普段、保健師さんとは子どもの検診以外会わないで、こういった場があると気兼ねなく相談事等、話せるのでうれしいです。
- ・鋸南町では、イベントが定期的に行われているので、子ども同士・大人同士の交流が出来るのでとてもうれしい。



話すだけの講座ではなく、問いかけや参加型で行っているため、集中力・行動力も養うことができ、日常生活でも成果を発揮している。保護者・子ども同士の関わりや地域との関わりを重視し、活気のある講座内容となっている。課題として、家庭の教育力の低下により、子どもに対して『過干渉・放任』になりやすく、子どもが『子どもらしく』・親が『親らしく』成長できない社会になっている。そこで毎月講座・イベントを開催することにより、居場所作り・関わり方の在り方を口コミやホームページ等で周知し、参加親子の増加と共に家庭教育の向上に努めたい。

農家直伝！

伝統野菜

「土気からし菜」の
漬け方を
実践を通して学ぶ



千葉県土気公民館主催
千葉県農政課共催

応募者 86人
受講者 40人

土気からし菜漬物教室

2019年2月27日10:00～12:00,14:00～16:00

定員20人×2回

【概要】

「土気からし菜」は、土気地区で300年以上の歴史を持つといわれる貴重な伝統野菜であり、農家が代々、自家栽培により種を守り栽培を続けてきました。「土気からし菜レディース（農家の女性たち）」を講師に、農家の昔ながらの漬け方を実践を交えて体験することで、土気からし菜の素晴らしさを後世に伝えていくための講座です。土気からし菜の歴史と漬け物の漬け方を調理実習を通して学びます。

【担当者所見】

各班に一人ずつ講師が付いて作業を進めるので、学習者と生産者が直接交流出来る面が満足度につながっています。生産者から、前日に収穫し、洗い、束ねて準備する苦労などのお話を受けて、学習者から「収穫が大変ならば、収穫から関わる講座になってもおもしろい」との声もあり、より深い関心を引き出せている教室であることが感じとれました。

【参加者の感想】

- ・土気からし菜を千葉市の財産として守っていきたいと農家の方が頑張っている。実際に漬け方をわかりやすく実践していただき大変参考になりました。
- ・土気からし菜レディースとっても素敵で、もっともっと広く伝えてほしい。



講座名「行徳の魅力に触れる～神輿づくりと祭り」

講座のねらい

行徳で伝統的に行われている祭りと神輿づくりにスポットを当て、市川行徳ふれあい伝承館や中台神輿ミュージアムなどの見学を通してその魅力を繙き、地元の文化や歴史への理解を深める。

講師：行徳まちづくり協議会副会長 鹿島吉夫 氏

第1回（5月24日） 伝統的な祭りの様子について館内で講習後、神明豊受神社へ。
実際のお祭りで使用する神輿を間近で見て触れることができました。



常夜灯公園を経て、伝承館へ。

地域の方の説明を伺いながら浅子周慶作の神輿や神輿づくりの資料を見て、神輿の町・行徳の歴史を学びました。

第2回（5月31日） 中台製作所の神輿ミュージアムへ



神輿の仕組みや出来上がるまでの工程について説明を聞き、実際の作業現場を見学。その壮大さときめ細やかさに受講生のみなさん感激していました。

参加者の声

- ・神輿づくりの現場を見ることができてよかった。
- ・外に出て街角を見たり神輿を見たりすることで、行徳地域に対する実感を得ることができた。
- ・講師の説明は心がこもっていて、とてもわかりやすかった。
- ・本行徳公民館ならではの企画だった。

成果と課題

本館の年間テーマのひとつである「地域の特色を重視した講座」を立案するにあたり、今回は特に行徳地域の祭りと神輿づくりにスポットを当て、実際の現場を見学することで学びを深める内容を心がけた。

講座の運営には、行徳地域の振興のために活動している「行徳まちづくり協議会」の方々の協力をいただき、館外を移動する途中にも要所要所で行徳の歴史に関するお話をしていただいた。地元のことをよく知りたいと集まった多くの受講生には、「行徳」への理解と愛着をより一層深めていただけたと思う。講師の鹿島氏は、行徳てらまち会、行徳まちづくり協議会、いずれの組織でも中心的な存在である。今回、祭りに詳しい地元の重鎮が快く説明役を引き受けてくださったのも鹿島氏のおかげである。何よりこの行徳を愛しており、熱い説明ぶりは、受講者にも伝わったようだ。

歴史関連の講座は参加者の多くがシニア層に偏りがちだが、私自身は10代の若者にこそ見てもらいたいという思いを強くした。今後、若者に対してアピールできるような内容も考えてみたいと思う。

白井市第5次総合計画“拠点創造プロジェクト”
白井駅前ミュージックフェア～輪音～（バンドチャレンジ講座2 含む）

主催者：白井駅前センター 指定管理者 NPO 法人 ワークスコープ

市町村：白井市

開催日：ミュージックフェア～輪音～ 令和元年6月23日（日）

バンドチャレンジ講座2 1～3月・5回、4～6月・8回 計13回

- ねらい：・白井市第5次総合計画“拠点創造プロジェクト”に基づき、地域の集いの場をつくる。
・音楽活動を通して世代間交流を図り、人を思いやる心を育む。
・音楽で地域活性化を図る。

様子：「輪音」は、まちづくりのためのチャリティーを目的とした事業である（地域に根ざしたコミュニティファンド：駅前ファンドと連携）。参加者が主体となり、市内外で活躍する音楽関係の団体とともに、学習支援団体や子ども食堂、白井駅前ロータリーのイルミネーションのため、白井駅前商店会に寄付してきた。バンドに挑戦したい市民向けに「バンドチャレンジ講座」も企画。好評のため、2期目を迎えている。地域のパパが講師となり楽器の指導、メンテナンスの他、バンドを結成していく過程で多感な中高生の心の成長にも寄与してくれた。半年の練習を経て輪音に参加し、中高生から高齢者までまちづくりに貢献できた。参加者も講師も市民がメインで活躍する市民力あふれる講座となっている。また、音楽活動を通して参加者同士の絆もさらに深まった。イベント後も継続して取り組むことになり、学生も「こういうことがなければ受験勉強もやってられない！」と、励みにしている。子育て中のママも、「息子に頑張る姿を見せられました。」と達成感を得られた。講師との厚い信頼関係が導いた賜物と感じる。職員もバンドを組み練習を重ねている。ただ見守るだけではなく、楽しさや大変さも体験することで、一体感が増していると感じる。「輪音」は回を重ねるごとに、音楽を通してたくさんの団体や市民がつながり、白井市の理想像「ときめきがあふれるまちづくり」を具現化している講座である。嬉しい悲鳴ではあるが、参加を希望する団体が多く時間に限りがあることが悩ましい点となった。その様な経緯があり、今年度は環境やみどりをテーマにした「GREEN FES!」という別の観点からまちづくりを進めるイベントを追加企画実施し、音楽活動を通じて国連が推奨している「17のグローバル目標」SDGsなども楽しみながら学ぶことができた。

バンドチャレンジ講座2
メンバー



バンドチャレンジ講座2の様子



輪音運営会議



白井駅前ミュージックフェア～輪音～



チャリティー
イルミネーション



事業名	本館家庭教育セミナー「パパとママのための地域で子育て応援セミナー」						
目的	子育てサークル連絡会が実行委員会として講演会を企画・運営していく中で、地域全体で子育てしていくことの意識を高める。						
主会場	東部公民館	学習方法	体験・講義	参加費	無料	定員	①②親子30組 ③親子20組
対象	青少年 成人一般 女性 高齢者 <u>その他</u>						
内容別分類	教養（うち 趣味、稽古ごと） 体レク <u>家庭教育・家庭生活</u> 職業意識・社会連帯 <u>その他</u>						
実施月日（曜）	時 間	内 容・講師	受講者数（人）			計	
			男	女			
1 9月21日（土）	10:00～11:30	「えほんうた・あそびうた～ライブ&トーク～」 西村直人（NPO法人えほんうた・あそびうた代表理事）	11	22		33	
2 9月28日（土）		「英語で遊ぼう！～英語劇と絵本の読み聞かせ～」りんごの木（子育て支援サークル）	8	14		22	
3 10月11日（金）		「音のおもちゃばこvol.4～親子で音楽とアートを楽しもう♪～」 田中 奈緒、日置 仁美（こんぺいとう）	5	18		23	
4 11月17日（日）	10:00～14:00	第8回東部子育てフェスタ	—	—		2204	
延時間数	510分	延受講者数	—	—		2282	

評価と今後の課題：

同年代のお子さんを持つ親子のつながりや地域での関りなどを地域全体で子育てしていけるよう子育てサークル連絡会との会議を経て、全3回の講座を行った。共働きの家庭も多くパパママの参加しやすい土曜日に設定したことで、昨年以上にパパの参加がみられ積極的にお子さんと遊ぶ姿や初対面の親子同士の関りが持て子育て支援に大いに繋がった。子育てフェスタでは、昨年の反省を活かしタイムスケジュールの確認、チーバ君による各催しものの広報や地区社協でボランティアをしている学生の協力により各コーナースムーズに進行し大盛況であった。今後も地域全体で子育ての意識を高めさらに地域の子育てを充実していきたい。



事業の関連する項目

子育て 保育 福祉 世代間交流 サークル化 団塊世代 防災 防犯 地区コミュニティ 環境
国際交流 IT 健康 ニート 男女共同 その他（ ）

（当てはまるもの全て）

共催等の場合の相手方

社教関係団体 体指連協・青少年相談員連協 町会・自治会 地区社協 官公庁

その他（子育てサークル連絡会）



サカサマ学級

平成31年1月26日（土）8時50分～16時20分

講座のねらい

『子ども達のやりたいを形にする』

「大人になってみたい」という子どものやりたいを形にするため、子ども達が主体となって準備会議を行い、学級を作り出す。立場を逆転することで感じることを、学ぶことに重点を置き、またその準備過程での失敗や意見のぶつかり合いから学ぶことを重要視する。

こども準備会議



木更津第二小学校で開催された『サカサマ学級』



<子ども達が作成した 時間割>

時間	教科	内容
8:50～9:00	朝の会	健康観察・持ち物検査
9:00～9:50	理科	蜂の生態
10:00～10:50	算数・社会	テスト・各県の特産品
11:00～11:25	将棋	遊び方講義
11:35～12:00	国語	漢字
12:05～12:55	体育・総合	なわとび・うんてい
13:00～13:30	昼休み	
13:40～14:30	外国語・音楽・総合	あいさつ・合唱
14:35～15:10	図工	折り紙
15:15～15:45	ゲーム	トランプ等
15:45～16:05	掃除	
16:05～16:20	帰りの会	

参加者の感想

先生ってもっと簡単に出来ると思って
いたけど、教えるって大変なことだとわ
かりました。（子ども先生より）

自分達の意見で時間割や授業の内容を
決められることは楽しく、次の会議が待
ち遠しかったです（子ども先生より）

子どもってこんなに大変な毎日を過ご
してるのかと実感。一日中学校で授業を
受けることを久しぶりに体験できた。
（大人生徒より）

成果と課題

授業を終えた子ども達の表情がこの事業の成果を語っていた。やり遂げた、という達成感とともに、次回
はこうしよう、という展望も持っていた。やりたいを形にできる経験はなかなかできるものではない、そこ
に立ち会えた大人たちも貴重な経験だったようである。公民館は事務局として関わっていたが、平成31年
4月から「ハッピーメーカー必ず実行委員会」を子どもと大人で立ち上げ、今年度の授業（令和2年2月29
日実施）に向けて活動を始めている。本事業はあくまでも『子ども達のやりたいを形にする』ことが趣旨で
あり、そのことを第一に活動できるよう、公民館も影ながら見守っていく所存である。

地域の歴史文化の継承に一筋の光 ～東京湾学講座を支える人びと～

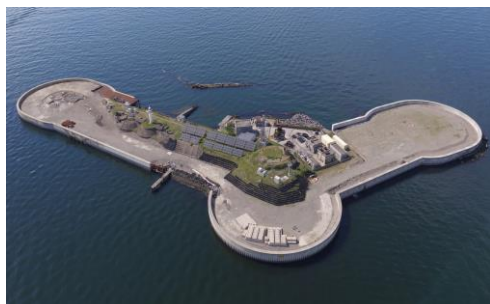
1 「東京湾学講座」の目的

東京湾学講座は、富津公民館主催講座として平成14年1月から毎月1回第三日曜日に開講しており「富津岬を中心に東京湾岸の歴史や文化・自然等を幅広く学習する講座」である。講座受講生が「富津湾の会」という組織をつくっており、現在会員数は約60名である。毎回テーマの異なる内容で、講師一人当たり1時間の講義を2講座実施しており、1時限目は大学教授や博物館職員等の専門家による講義、2時限目は「富津湾の会」会員による研究発表を行っている。年2回程度探訪会を実施している。

講座のねらいとしては、富津岬を中心とした東京湾岸の歴史や文化・自然等を幅広く学習することで、地域の歴史・文化を再発見し、郷土愛を深める。また、会員が研究成果を発表することで、会員同士が研鑽を積みながら研究を深め、人材育成に繋げていく。歴史資源を掘り起こし、資料化することで、後世に伝え残すことを目的としている。

2 「東京湾学講座」から生み出されたもの

東京湾学講座は今年で18年目を迎えるが、その歴史の中で設立当初から「東京湾海堡の活用」がたびたびテーマとしてあげられ研究活動が行われてきた。東京湾海堡は明治～大正期に浦賀水道に国土防備を目的に3つ造られた人工島で、このうちのひとつ第二海堡が今年歴史観光を目的とした観光事業者による上陸ツアーが実施されており、「富津湾の会」の地道な活動に一筋の光がさしてきている。昨年10月には富津市と共催で講演会が実施された。



▲第二海堡全景 提供:国土交通省
関東地方整備局東京湾口航路事務所

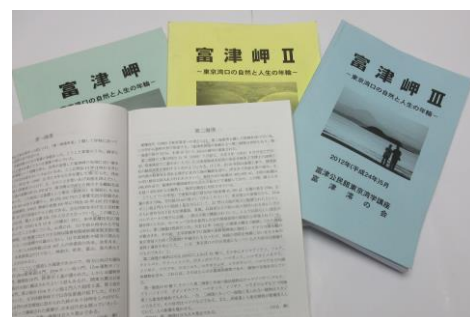


▲富津湾の会会員も参加した3月
の上陸ツアー灯台付近の様子



▲防空指揮所といわれている建物

また、講座の記録誌「富津岬Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を刊行しており、富津湾の会では「市史など公的な歴史書とは別の、より多くの人びとから見た地域史」としており、地域の歴史を後世に伝え残す重要な役割を果たしている。また、東京湾学講座受講生の一部から、地元に残る織本家文書を読み解く「古文書を読む会」が立ち上がり、郷土の歴史を読み解く人材の育成を行い、探訪会等での受講生の学習に役立っている。今後の課題としては講座を継承していく若い人材の確保である。



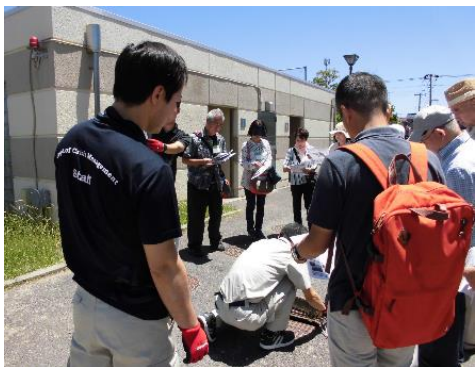
▲記録誌「富津岬Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

東京湾学講座が18年間継続発展してきたのは、富津湾の会会員を始めとする本講座に関わる多くの人びとの「郷土の歴史文化を後世に語り継いでいこう」という熱い思いと尽力によるものである。本講座を支えているもの、それは地域資源となりうる「歴史文化」、それを継承していこうと思いを一つにする「人と人との絆」である。

講座名「自然災害から家族の命を守る」

講座のねらい

市川市の防災対策を知り、災害が起こった時、自分の地域がどういう状況が予想されるのか、どう対処すべきかを学ぶ。災害時の料理を体験することで、普段から災害に備える意識を持つ。定期的に講座を行うことで、地域に防災意識を広める。



第1回（6月16日）

講師：危機管理室地域防災課

市の職員から地震と水害について前後半に分けて、予想される被害や、防災情報の入手の仕方等、具体的に教えてもらった。また実際に大洲防災公園の防災機能を見学し、最後にエコノミー症候群の予防になるストレッチも教えてもらう、という充実した内容だった。

第2回（6月23日）

講師：水島重光 氏

講師の被災体験や被災地支援活動に基づいた内容で、紙おむつの活用法や日頃からどういう物を備えておくべきか、講師ならではの話が聞けた。



第3回（6月30日）

講師：小野沢旬子 氏

ライフラインが途絶えて在宅避難になった場合の調理で、ご近所の方々と協力して作るイメージで取り組んでももらった。ポリ袋調理等、初めての体験に皆さん意欲的に取り組んでいた。

参加者の声

- ・ 一歩進んで災害対策を考える機会となりました。1回～3回、内容も充実していてとても良い講座でした。
- ・ 今まで防災と心では思っていましたが、具体的に実習もあり大変参考になりました。
- ・ とても充実した体験ができ、災害時に備えることが少しは出来るようになったと思います。
- ・ 大変勉強になりました。即実践できる事は、しようと思います。今日の料理も実践したいと思います。

成果と課題

防災の講座を3週連続受けようと思うのは、かなりハードルが高いのか、今回も定員割れとなったが、参加された方の満足度は高く、3回シリーズで受けることで、段階的に意識を深めてもらった。

7月初旬の九州における、集中豪雨。気象庁は住民に「自らの命を守る対応を」と呼びかけた。この主催講座に参加された方々は、改めて災害に備える意識を強めることがいかに重要であるかを再確認されたことであろう。応募者数が他の楽しい講座と比べ低いものの、昨年同様、受講者の意識は高く、そこから広がる危機意識に大いに期待したい。それとともに、健康寿命の延伸のテーマは主催講座の重要なファクターではあるものの、それとは別に本来の行政機関が持つ住民の安全を守るという責務に立ち、今後も当館ではこの講座を定期的に続けていきたいと考える。

講座名「民話の里 柏井を訪ねて」

講座のねらい

公民館周辺の民話を語りで聞き、民話の舞台を館外見学する。地域の歴史・文化を学び、強度のほこりや愛着の心を育む。

第1回（5月21日） 講師：湯浅 止子 氏

第2回（5月28日） 講師：湯浅 止子 氏

初回は普通の会議室において実施したが、語り・朗読があまりにも素晴らしく、2回目は舞台のある集会室に変更し、気持ち良く演じてもらった。



民話の語りと解説



民話の語りと解説（舞台の上で語り）

第3回（6月4日） 講師：湯浅 止子 氏

館外での現地史跡等の見学では、時間内に多くの見所を設定して頂き、受講生全員が満足していた。

講座のねらいである「地域の歴史・文化を学び、郷土の誇りや愛着の心を育む。」ことは、十分に達成されたと感じた。



民話ゆかりの地を巡る（子安神社にて）

参加者の声

- ・ 地理的な事、歴史的な事が大変良くわかりました。
- ・ 市川のこと、野菜、果物の歴史も解り、大変勉強になりました。
- ・ 市川に住んで40年、今回の民話を孫に伝えてあげたいと思います。
- ・ お話を聞いてから、実際の場所を見ることが出来てとても良かったです。
- ・ 柏井をもう一度ゆっくりと歩いてみたいと思います。

成果と課題

自分たちの住んでいる街の歴史や地名の由来等を専門家に聞き、そしてその歴史に関連する昔話や言い伝えを口頭伝承の形で触れることは、受講者にとって、とても興味深い内容であった。受講者の感想にあるように、孫に伝えていきたいとか、これからもっと市川のことを学びたいという、主催者側が意図する、繋ぐ、広げる、高める講習会であった。

今回の講師方々には、個人で、団体で、社会教育課の講師登録をして頂いた。

講座名「災害を知り、備える」

講座のねらい

近年増えている災害、今後予測される災害を知り、それに備える

第1回（5月24日） 講師：地域防災課

第2回（5月31日） 講師：地域防災課



参加者の声

- ・ハザードマップの説明等参考になった。行政に依存することなく自分の命は自分で守る事を考えます。
- ・津波の時3階建ての小学校で本当に助かるのか、不安は残った。
- ・いろいろ知らないことが多かった。時間がもう少し欲しい感じ。
- ・ダンボールトイレはよかった。
- ・防災に関する情報はもっと発信してほしい。
- ・避難所では避難者が運営するのだと初めて知りました。知っておいてよかった。

成果と課題

当該講座のテーマは、広く市民の関心が高い分野であると受け止めている。また、市として平素より周知を図るべき情報と認識している。費用対効果という点からも、市の職員を活用することで高くなっている。

会場のキャパがもう少しあればと感じました。なお、やや満足という受講者の評価は、“回数的に物足りない” “もっと知りたい”等の前向きな反応で書かれたものと思われる。

行政からの情報発信として、地域にある身近な公民館が取り上げるべきものとも言える。

講座名「弓道講座」

講座のねらい

弓道の基本と作法を学び、心身を鍛えることで健康増進を図る

第1回（5月11日） 第2回（5月18日） 第3回（5月25日） 第4回（6月1日）

講師：市川市弓道連盟



参加者の声

- ・ずっとやってみたかった弓道に巡り合えて本当にうれしかったですし、大変楽しく学ばせていただきました。
- ・講師の方が丁寧にご指導くださり、まったくの初心者でも前向きに取り組めました。
- ・とても奥の深い武道だと思います。
- ・仕事と家事の両立で不安だが、せっかくなので少しずつでも続けてみようと思いました。
- ・きちんと基礎から教えていただきとても良かったです。講師の方が親切で楽しく受講できました。
- ・回数は適当ですが、月に2回くらいだと休みを取りやすかったです。

成果と課題

弓道講座は、市内に唯一の弓道場を擁する本館ならではの恒例の講座である。弓道は、日本武道協議会が制定している9つの武道の中で、距離が一番長い競技である。元々は、戦術に見る殺傷性の高い飛び道具の武術であったが江戸期に入り、射法八節に見るように所作立ち振る舞い、呼吸、精神統一（集中）正確性等に優れている点から、年齢を超えて愛好者が多い。

講師の親切・丁寧な指導により、受講生は楽しく基本と作法を学ぶことができた。弓道という武道に接し、実技のみならず礼儀・作法を学ぶことができた。弓道への関心も高まり、弓道連盟の基礎講座に17名、市民スポーツ教室へ3名の申込があった。受講生の熱心な態度・振る舞いから、当初の講座の狙いは達成できたと思う。

受講率が87%と前回より下回ってしまったので、全回出席を条件とした受講者決定に工夫を検討したい。今後も、市弓道連盟の全面的な協力を得て、本館唯一の主催講座として取り組んでいきたいと思う。

私たちが住むまちで、Waveを起そう

地域に住む子どもも大人も、主婦の方
も働いている人も、地域内の人も地域外
の人も、多様な価値観多様なライフス
タイルを持つ人たちがつながり、つながり
の中から新しい動きが生まれる、そんな

地域づくりの必要性が高まっています。
人が安心して集い、つながれる場を創出
する仕掛け人としてのコミュニティ
ディエーターについて、実践を通して理
解を深めるプログラムです。

講座概要

【オープン講座】

1月12日(日)

メディエーターを知る

メディエーターが必要とされる社会背景や実例、メディエーターに必要な力とはいったい何か? を講義とワークショップを交えて深める

【本講座】

第1回

2月9日(日)

メディエーターは
誰き、そして問う

メディエーターに必要な他者の声を本心に聴き、そして他者が本来持っている思いやアイデアを引き出す問う方を参加者とともに学ぶ

第2回

2月16日(日)

メディエーターは
場を創る

メディエーターとして人が集いつながれる場をどのように作り上げるのか、その方法や大切にすべきポイントを参加者とともに学ぶ

第3回

2月23日(日)

メディエーターは
拡げる

メディエーター自身のつながりを常に拡げ続けるために、どんなことが出来る、どう拡がりを創ればいいのかを参加者とともに考える

※いずれも午前10時〜12時

ファックス送付票

グリーンタウン光ヶ丘集会所

宛先:「コミュニティメディエーター
養成講座」事務局
FAX: 04-7173-8032

コミュニティメディエーター養成講座 申込み

申込者氏名

住所

年齢

連絡先電話番号

性別